

BL 書籍を読みつづける理由

—読者がもつセクシュアリティ観に着目して—

The Reasons to Read “Boy’s Love (BL)”

: Focusing on Their Own Sexuality

学籍番号：201721695

氏名：松崎 愛

Matsuzaki Megumi

近年、「ボーイズラブ（以下 BL）」と呼ばれる男性同士の恋愛をテーマにした作品が、芸術系雑誌やテレビ番組等メディアを賑わせている。また、近年の日本においては LGBT ムーブメントが本格化している。なかでも「レインボー・リール東京（旧・東京国際レズビアン&ゲイ映画祭）」では、BL 愛好者へのイベント参加を促す取り組みが行われ、BL 愛好者とセクシュアル・マイノリティ当事者とが交流する機会も生まれはじめている。

BL 愛好者とセクシュアル・マイノリティ当事者、特にゲイ男性との関係に関する研究では、「やおい論争」における問題提起以降、その多くが異性愛女性の BL 愛好者によるゲイ表象の横奪とゲイ差別の問題が論じられた（石田, 2007）。一方で堀（2012）は、BL 愛好者がゲイ男性同様に、多様な性のあり方を求めていると論じ、溝口（2015）は差別的なゲイ表現を乗り越え、多様な性のあり方を認めない悪しき社会通念からの脱却を目指した作品群を示した。しかし、実際に BL 愛好者自身が BL 愛好を続けるなかで、ゲイ表象の問題に自覚的か、またどう向き合っているかを調査したものはなかった。

そこで本研究は、質的調査の手法を用い多様なセクシュアリティをもつ BL 愛好者に焦点をあて、彼らのセクシュアリティ観や恋愛観に着目しながら、彼らが BL 愛好を続ける意識に迫った。

その結果、BL 愛好を隠すことから、BL 愛好者は趣味としての特殊性を感じていることが分かった。また BL 愛好が特殊な趣味であると認識せざるを得ないために、愛好者間での団結をより強固にすることが示唆できた。そして、そうした団結の中で流行する「ホモ」という言葉の特別な意味と、この言葉のもつ暴力性についての問題が発見できた。BL 愛好者の用いる「ホモ」には、その言葉でしか言い表すことのできない関係性への志向が表れている。しかし、現実世界ではゲイ男性への差別語として機能することへ自覚的である愛好者も存在した。「ホモ」という言葉の意味において葛藤する BL 愛好者たちは、差別の問題を孕みながらも自分自身のセクシュアリティに基づく恋愛観に寄り添う存在として、BL 書籍を特別視し、愛好していることが分かった。

BL 愛好者たちの抱えるゲイ当事者との問題は、両者の健全な関係の構築のためにも、解消されていくべき問題である。「ホモ」という言葉に表れるような認識のずれという問題が誰の目にも明らかなものとなり、解消されることで一層、「レインボーリール東京」で行われるような取り組みが大きな意味をもつであろう。

研究指導教員：後藤 嘉宏
副研究指導教員：照山 絢子